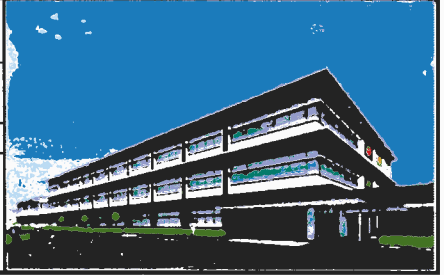


# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)長岡事業所S&B計画	階数	地上3F
建設地	京都府長岡京市東神足一丁目10番	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	840人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2016年2月9日
敷地面積	25,838 m <sup>2</sup>	作成者	堀内信男
建築面積	4,352 m <sup>2</sup>	確認日	2016年2月9日
延床面積	9,533 m <sup>2</sup>	確認者	堀内信男



**2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)**

**BEE = 1.9** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 84%

③ 上記+②以外の: 84%

④ 上記+: 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

**2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)**

**2-4 中項目の評価 (バーチャート)**

**Q1 室内環境**

Q1のスコア = 3.3

**Q2 サービス性能**

Q2のスコア = 3.4

**Q3 室外環境 (敷地内)**

Q3のスコア = 3.1

**LR1 エネルギー**

LR1のスコア = 4.2

**LR2 資源・マテリアル**

LR2のスコア = 3.6

**LR3 敷地外環境**

LR3のスコア = 3.4

<b>3 設計上の配慮事項</b>	
<p><b>企業活動との関係</b></p> <p>企業の新たな活動拠点として快適な環境と機能性はもちろんのこと、敷地の周辺環境を考慮し、階数を3階としながらも、一部2階や下屋とすることで、周囲への圧迫感の軽減や日影への配慮も行っている。さらに、和風の要素を取り込んで、環境配慮建築設計要素でもある大きな庇と再生木ルーバーにより外観を特徴付けている。</p>	<p><b>環境性能との関係</b></p> <p>もともと本計画地には、壁・屋根がスレートの既存建物が長い期間建てており、現在工事中の研修棟と合わせ、環境的にも今回このような形で更新されていくことは、「歴史的建造物の保存」とは逆の意味で期待されている計画である。</p>
<p><b>省エネルギー</b></p> <p>事務空間は、大スパンによる広い執務空間を確保している。外部開口部は出来る限りの大きさを設置する一方で、庇とルーバーにより日射量の抑制を行っている。</p>	<p><b>省資源・省材</b></p> <p>来客ゾーンは回廊形式とすることで、北東の既存校並木と、今回整備する庭に対して広く開かれた空間となっている。回廊沿いの応接室、会議室はダブルガラスによるパーティションにより、遮音を確保している。</p>
<p><b>省資源・省材</b></p> <p>LED照明を採用することで室外環境について配慮している。</p>	<p><b>省資源・省材</b></p> <p>鉄骨造を採用し、外壁や勾配屋根、外部ルーバーをはじめ、内部の仕切り壁も基本的に乾式工法としている。</p>
	<p><b>省資源・省材</b></p> <p>従業員のための食堂・厨房が2階に設置されるが、ガスを使用しない「オール電化厨房」であり、燃焼機器による排気の無いことをコンセプトとした設備となっている。外部の表情は庇やルーバーなどにより「影りの深い」ものとなっており、光害や反射音などへの対応にも効果が出るものと</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される